ご家族への説明資料　｜　小児集中治療科

PICU入室後の処置について

小児集中治療センター（PICU）で行う可能性のある処置と、
それにより起こりうることを、ご説明します。

静岡県立こども病院

はじめに

PICUでは、一般病棟では行わない処置を行います

お子さまの状態に応じて、次の処置を行う可能性があります。処置によって、予期せず起こりうること（偶発的合併症）もあわせてご説明します。

- 気管挿管（人工呼吸）
- 動脈カテーテル
- 中心静脈カテーテル
- 胃管
- 尿道カテーテル
- 身体抑制
- 体位変換・排痰の介助

処置 1

気管挿管（人工呼吸管理）

目的　重い呼吸障害があるとき、口か鼻から気管へ管を入れ、人工呼吸で酸素を送ります。

口の中のけが

管を入れるとき、唇や舌が傷ついたり、歯が折れたりすることがあります。

声帯のまひ

炎症で声帯を動かす神経が一時的に麻痺し、声がかすれたり、呼吸が苦しくなることがあります。

声門下狭窄

抜いたあとのどが痛むことや、炎症で気管が狭くなり呼吸が苦しくなることがあります。

気管・気管支の肉芽

管が当たる所にコブができ、空気の通り道が狭くなることがあります。

気胸

人工呼吸の圧で肺が破れることがあります。胸に管を入れて空気を抜く処置が必要なこともあります。

声帯のまひや気管の狭さが改善しない場合は、気管切開が必要になることもあります。

処置 2

動脈カテーテルの留置

目的　呼吸や循環が不安定なとき、動脈に細い管を入れ、血圧を続けて測ったり頻繁に採血したりします。

動脈血栓

血のかたまりで動脈がつまり、手足の指の血流が悪くなる、まれに指が失われることがあります。見つけたら早めに管を抜き、血栓を溶かすお薬を使うこともあります。

血腫

動脈のまわりに内出血が起こることがあります。

神経の損傷

血管のそばの神経が傷つき、しびれやまひが起こることがあります。

処置 3

中心静脈カテーテル（PI・PICCを含む）

目的　お薬や栄養を入れる、体の水分量を調べるため、首・太ももの付け根などの太い静脈に管を入れます。

気胸・血胸

肺に針や管が刺さって空気が漏れることがあります。胸に管を入れて空気を抜き処置が必要になることがあります。

心嚢水

心臓のまわりに点滴の液がもれてたまり、心臓の動きが悪くなることがあります。

血腫

静脈のまわりに内出血が起こることがあります。

神経の損傷

血管のそばの神経が傷つき、しびれやまひが起こることがあります。

抜けにくい

使い終わったあと管が抜けなくなり、まれに手術が必要になることがあります。

処置 4・5

胃管と尿道カテーテルの留置

胃管　口から食事がとれないとき、鼻か口から胃まで管を入れ、胃の中身を吸い出したり、お薬やミルクを入れたりします。

起こりうること

誤嚥性肺炎：管が気管に入り、お薬などが入って肺炎になることがあります。

のど・食道・胃の穿孔：粘膜が破れ、胸やおなかに重い炎症が起こることがあります。

出血・副鼻腔炎：鼻や口の粘膜が傷ついて出血したり、副鼻腔炎の原因になることがあります。

尿道カテーテル　尿の量を厳密に管理したいときや、自分で排尿できないときに、尿を出すための管を入れます。

起こりうること

尿道の損傷：尿道が傷ついて出血し、あとで尿道が狭くなって尿が出にくくなることがあります。

処置 6

身体抑制

治療中の危険を避け、安静を保つために、やむを得ず体の動く範囲を制限したり、固定したりすることがあります。

ベッドからの転落を防ぐ

ベッド柵、体幹の固定

管が抜けるのを防ぐ

紐や弾性包帯による手足の固定、固定筒、シーネ、ミトン

頭や首を安静に保つ

砂のう

お子さまの負担を減らせるよう、状態を確かめながら必要最小限にとどめます。

処置 7

体位変換、排痰の介助

病気によっては、呼吸を助けたり痰を出しやすくしたりするために、胸を外から動かしたり、体の向きを変えたりします。

起こりうること：骨折

骨の病気がある場合や、長く寝たきりの場合には、骨折が起こることがあります。

PICUで起こりやすいその他の合併症

重い状態の治療中に起こりうること

床ずれ(褥瘡)

同じ姿勢や医療機器の圧迫で皮膚が傷むことがあります。ひきつれや色素沈着、頭の傷あとによる脱毛(瘢痕性禿髪)が残ることもあります。

点滴による障害

細い血管の点滴で炎症・感染・もれによる腫れが起こり、皮膚に痕が残ることがあります。

管からの感染症

入れている管から病原体が入り、肺炎や血液・尿路の感染症になることがあります。その場合は抗菌薬で治療します。

静脈血栓症

長く寝ていると、血管の中に血栓ができることがあります。ストッキングやお薬などで予防します。

消化性潰瘍

ストレスで胃や十二指腸に潰瘍ができ、出血することがあります。胃酸を抑えるお薬で予防します。

どれも予防に力を尽くしますが、完全に避けるのは難しいことをご理解ください。

同意について

ご納得いただけたら、同意書にご署名ください

それぞれの処置と合併症について説明を受け、十分にご理解いただいたうえで、ご家族（代諾者）がご署名ください。

わからないことや心配なことは、どんなことでも担当医にお尋ねください。